

平成 22 年度臨時（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 22 年 9 月 4 日（土） 11：00～16：00

場 所： 国立代々木競技場中 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光（委任：河野博文） 河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松真、前田彰一、青山篤、児玉萬平、斎藤渉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：前田彰一） 小山利男、外山昌一、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、吉田豊、宮崎史康、奥村文浩、中村公俊、吉留容子、金井寿雄（委任：山田敏雄）

以上 27 名、内委任状 3 名

出席監事：高木伸学、浪川宏、栗原博

以上 3 名

オブザーバー：昇隆夫国体委員長、増田開ルール委員長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 3 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、河野博文副会長が議長となり、平成 22 年度臨時（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、斎藤渉、鈴木國央、の両理事が任命された。

河野副会長から、本理事会における重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 表彰規程の改訂

庄司理事から資料に基づき、JSAF 表彰規程の改定について説明があった。

前回理事会において、感謝状の取り扱いについて、国体や大きな国内大会に尽力した地元関係団体に感謝状を贈呈する。贈呈方法は、閉会式などタイムリーな時期とする旨の「JSAF 表彰規程細則」改訂を協議した。JSAF 表彰規程第 2 条（表彰の種類）7 項に「感謝状」の内容規程を明確に細則追記としたとの発言があった。

承認された。

2) 平成 22 年度環境委員会委員長の変更

青山常務理事から資料に基づき、平成 22 年度環境委員会委員長の変更について説明があった。現委員長の岡田達雄氏は業務多忙等の理由により、新委員長は菊地透氏に交代するとの発言があった。

承認された。

<協議事項>

1) 公益法人移行プロジェクトについて

庄司理事から資料に基づき、公益法人改革 3 法施行への対応について提案があった。

公益法人移行にあたっては、「定款」検討を先行させてきた。平成 22 年 6 月 19 日評議員会での移行アンケート内容は、評議員の数について、評議員の出席の可否と選出条件について、評議員会開催の回数についての結果を中間報告として表に示した。今後の検討は、公益法人移行に伴う JSAF 規程・規則等の修正への対応が必要であるとの発言があった。

齋藤理事から資料に基づき、定款事業条項案について補足説明があった。公益認定にあたり、定款に記載された公益事業項目と会計は連動性を持たせ、公益事業項目の収支を明確化し、収支相償になることが義務づけられる。よって、事業項目は細分化しないで大分類としたほうがいいと判断できる。事業項目は、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本カヌー連盟を参照にして区分したとの発言があった。

柴沼理事から、理事の比率や議決数が 2/3 となっているのは、JYA と NORC の合併時の基本合意が設定されているが、外洋理事・加盟団体・メンバー等の承認は得ているのかとの質問があった。

児玉常務理事から、理事会・評議員会で議論をしながら進めているので、特に問題はないと認識している。合併から 10 年が経過し、種々の課題が解消されてきているとの意見が大半である。また、外洋系の理事が、必ずしも合併当時の決定に関与していないことから詳細の経緯が不明な点もあるとの発言があった。

外山理事から、加盟団体・特別加盟団体の取扱や位置づけについて、整理をすべきである。また、会員の位置づけはどのように考えるのかとの質問があった。

高木監事から、寄付行為には記載されていないが、JSAF 下部団体、組織的に独立した団体の取り扱いについて、JSAF の責任または監督権限等があるのか検討する必要はある。ただし、連盟財政上では会員は活動を支える収入源であることから、取り扱いは議論すべきであるとの回答があった。

坂谷理事から、定款の事業に海事思想は含まれるのか、含まれなければ文言を掲載していただきたいとの要望があった。

秋山副会長から、事業としてハーバーの管理に関する「指定管理者」の取り組みも

重要ではないか。また、環境事業は特別会計であり、事業項目を立てるべきであるとの発言があった。

宮崎理事から、定款の記載の順番を寄付行為に沿った形式で修正できないか。また、1名の理事、1名の評議員から開催要請があった場合に、会長はそれを行う必要があるのかとの質問があった。

高木監事から、理事会・評議員会の招集が1名の理事や評議員で可能であるが、この取扱は現実的でないとの回答があった。

河野副会長から、目的と事業は組織の顔である。会計処理区分は重要で、第4条事業項目は「海事思想普及」、「施設管理」、「環境」等の特記は必要であるとの発言があった。

前田専務理事から、事業区分は新公益法人会計基準と連動させて検討するとの発言があった。

2) 平成 23・24 年度理事・監事選挙公示(案)

庄司理事から資料に基づき、平成 23・24 年度理事・監事選挙公示(案)について提案があった。

平成 23・24 年度役員選出に際して、平成 16 年 5 月施行の財団法人日本セ - リング連盟役員選出規程ならびに理事会決議に基づき改選する。選出数・選出方法は、前回改選通りで、会長理事候補選出枠 1 名、全国区選挙理事候補選出枠 8 名、水域理事候補者選出枠 13 名、会長推薦理事候補枠 5 名で合計 27 名、監事候補選出枠 3 名とする。

また、公益法人移行に伴う役員の任期の考え方について、現行役員任期は 2 年となっているため、移行後の役員任期を定款変更により、理事 2 年・監事 4 年とした場合、移行後の任期満了期間が変更されるとの発言があった。

3) ユース艇種選定に関する意見について

柴沼理事から資料に基づき、「高校ヨット部での採用艇種と国体やジュニア・ユース強化での艇種の相違について」に関する意見について提案があった。5 月理事会における奥村理事提案に係わる上記討議資料について、中部ヨット協会理事 6 人からの現状の意見が示されたので提出する。重要な討議であることから、今後も継続審議して JSAF が方向性を示すべきであるとの発言があった。

山田理事から、千葉国体において現状の国体採用艇種の問題点について参加選手にアンケート調査をすることを進めている旨、オリンピック特別委員会で検討している。これは、インターハイのあり方、艇種別、高体連と連携していると考えられる。次世代選手を育成するには、JSAF の考えを示し、選手育成をすることが大切である。アジアでの日本ユース選手には危機感を抱いている。次回理事会で国体アンケート調査結

果を発表したいとの発言があった。

奥村理事から、オリンピックでウィンドサーフィン級は艇種変更があった。昨今の高校ヨット部の衰退は、高校ヨット部での採用艇種と国体やジュニア・ユース強化での艇種の構造的な問題もある。普及を考慮すると JSAF ポリシーを示すことが大切であるとの発言があった。

山田理事から、JOC 主催の「一貫指導コンソーシアム」で、各競技団体が取り組んでいる一貫指導ポスターにも提示したが、選手強化は世界に繋がる艇種であるべきと考えている。次世代の選手育成のために、オリンピック特別委員会とジュニア育成委員会で系統立てた提案を理事会に提出するので、議論していただきたいとの発言があった。

中村理事から、セーリング人口の分母を広げるためには、採用艇種問題は検討するべきである。ユース選手なども支援団体が少ないことから、安価で長持ちし、世界で通用する艇の選択が大切であるとの発言があった。

植松副会長から、キールボート発展の見地からは、選定の際には体重がある選手が乗艇できる艇種をお願いしたいとの発言があった。

昇国体委員長から、国民体育大会は日本体育協会主導で運営していることを前提に考慮しても、現状の方向性やセーラーの意見を無視することはできないし、国体存続の岐路にある現状も踏まえると艇種変更も検討するべきであろう。国体艇種採用の経緯も含めて、国体委員会としても意見を提出するとの発言があった。

鈴木理事から、個人的意見になるがどの艇種でも関係ない。基本的に一番大切なのは技術的指導である。艇種問題は 2 の次で、セーリングテクニック向上させる環境を示さないといけないとの発言があった。

山田理事から、基本的スタンスは必要だが、オリンピック特別委員会としては現状の問題点を提出したいとの発言があった。

河野副会長から、艇種問題の議論について、3つの要素があるのではいか。個々のセーラー及び県連等の経済性、国際艇種との整合性、ジュニア艇、インターハイ艇、国体種目艇、オリンピック艇をみると体格的要素は多い。そこで、各水域で議論していただきたい。艇種問題は JSAF で考えるが、関係者との意見交換をした上で、JSAF のビジョンを示していきたい。その上で、国体でのアンケートは重要であり、現状の問題点を浮き彫りにできるのではないかと。各理事・委員会でも検討していただき、検討チームを発足させたい旨、山崎会長に依頼するとの発言があった。

< 報告事項 >

1) 千葉国体感謝状の贈呈について

庄司理事から資料に基づき、千葉国体感謝状の贈呈について報告があった。第 65 回国民体育大会千葉国体セーリング競技会開催準備等に多大なるご協力をいただいた

「ゆめ半島千葉国体千葉市実行委員会」、「海上自衛隊横須賀地方総監部」、「船橋市漁業協同組合」、「株式会社太平丸」に贈呈するとの発言があった。

昇国体委員長から、競技団体初の試みで感謝の意が表された。

2) ルール委員会報告

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

平成 22 年度 IJ 推薦候補者について、前園昇氏・山岡閃氏・岡部幸司氏の 3 名を推薦可と判断した旨、承認いただきたい。日本セーリング連盟規程 6.3 の解釈について公示(案)を JSAF ホームページに掲載するとの発言があった。

3) レース委員会報告

前田専務理事及び松原レース委員から資料に基づき、レース委員会報告があった。

平成 22 年度 IRO 候補者について、岡田彰氏から申請があったが、ISAF 規定を満たすことができないことから、推薦を辞退したい旨の申出があったので、推薦を見送ることにした。共同主催・公認・後援願いの申請許可等について発言があった。

4) 指導者委員会報告

小山指導者委員長から資料に基づき、平成 22 年度全国指導者養成講習会開催について報告があった。

平成 22 年 12 月 4～5 の 2 日間、東京都若洲海浜公園ヨット訓練所において開催する。特に「オリンピックの過去・未来～銀・銅から金へ～」と題して、歴代の監督のシンポジウムを用意した。理事各位及び都道府県セーリング連盟の指導者の皆様の参加をお願いしたいとの発言があった。

5) オリンピック特別委員会報告

山田オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、オリンピック特別委員会報告があった。

平成 22 年 4～9 月におけるナショナルチーム選手及びジュニアユースナショナルチーム選手の海外遠征実績を表に示した。JOC 評価基準(マイルストーン)目標では、470 級女子のみ達成でき、高い評価を得ることができた。英国ウエイマスで開催されたスカンディア選手権(五輪プレプレ大会)では、順風から強風のコンディションで、細かいテクニックではいい感触はあったが、力で相手をねじ伏せる体力がないことが明らかになった。来年枠取りがかかるパースでの大会では強風が予想される。当委員会では、「選択と集中」を掲げ、勝てる種目に集中して強化する意向である。また、11 月開催のアジア大会ではマッチレースチームが初参加で期待ができる。

マルチサポート事業は、文部科学省が実施している受託事業で、トップレベル競技

者に対して、多方面から専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に行う事業である。平成 22 年度から新規指定競技にセーリングが支援を受けられることになった。支援要望としては、ウエイマス気象データ収集・分析、470 級競技艇の性能分析、GPS 機器によるレースタクティクス、マルチサポートハウスへの要望などで、今後は JISS・筑波大学・JOC と協議を重ねて支援内容を決定するとの発言があった。

6) 外洋艇推進グループ報告

坂谷理事から、第 51 回パールレース終了報告があった。

植松副会長から、ジャパンカップ 2010 終了報告があった。

児玉常務理事から、中国ヨット協会招待レースの報告があった。青島メイヤーズカップは<ラッキーレディ>チームが優勝、日中韓親善レガッタは神戸大学チームが参加(結果は 2 位)、また 10 月チャイナカップは葉山マリーナヨットクラブチームがエントリーするとの発言があった。

吉田理事から、10 月イスタンブールで IRC コンgress開催、12 月ブーケットキングスカップに IRC 計測委員派遣をしたいとの発言があった。

7) IRC 証書申請推移について

吉田理事から資料に基づき、IRC 証書申請推移について報告があった。

平成 22 年 8 月 30 日現在、IRC 証書申請数は 309 艇、有効証書数は 253 艇である。本年度は、西日本レガッタ及びハウステンボスカップなどに IRC クラスが設定された。来年度は、津軽海峡で IRC 講習会開催をしたいとの発言があった。

8) 平成 22 年度 8 月末メンバー登録数について

松原理事から資料に基づき、平成 22 年度 8 月末メンバー登録数について報告があった。総合計 8,637 名との発言があった。

9) 平成 22 年度 7 月末予算管理月報について

斎藤理事から資料に基づき、平成 22 年度 7 月末予算管理月報について報告があった。

10) 平成 22 年度通常(第 1 回)理事会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度通常(第 1 回)理事会議事録(案)について報告があった。

11) 平成 22 年度第 1 回評議員会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度第 1 回評議員会議事録(案)について報告があった。

12) 加盟団体会長交代について

前田専務理事から資料に基づき、外洋加盟団体会長交代について報告があった。

外洋三浦会長に平松隆氏、外洋いわき会長に菊池邦仁氏が就任した旨、発言があった。

13) その他

前田専務理事から、添畑薫氏写真展開催について報告があった。

前田専務理事から、横浜フローティングショー開催について報告があった。

前田専務理事からパンフレットに基づき、日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年シンポジウムについて報告があった。

前田専務理事から、セーリングヨット研究会シンポジウム終了報告があった。

山田理事から、国際 420 級コーチセミナー(和歌山)への参加呼びかけがあった。

山下理事から、8月29日近畿北陸学生ヨット選手権大会(琵琶湖)での死亡事故報告があった。

小山理事から、9月18～19日東日本ヨット選手権(若洲)の参加呼びかけがあった。

中村理事から、8月開催の山口国体リハーサル大会の協力御礼があった。

柴沼理事から、1)IRC 国際計測セミナー誘致に関する質問があった。2)国体プロテスト委員長ならびにレース委員長は、JSAF ルール委員長及びレース委員長が業務を行っているが、負担が多いことから委員長が指名することに変更していただきたい。3)全日本など公認申請等の審査が厳しいとの意見をいただいているとの報告があった。

河野副会長から、セーリング経験者の教員就職について現状報告があった。

小山理事から、千葉国体表彰式への参加と日本ヨットマンクラブ懇親会への参加呼びかけがあった。

前田専務理事から、次回理事会開催場所について、理事各位に諮ったが特に希望する開催場所もなく東京で開催するとの発言があった。

平成 22 年度臨時(第 2 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 22 年 9 月 4 日

議 長 副 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 斎 藤 渉

議事録署名人 理 事 鈴 木 國 央